



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 しらこまひとみ 白駒妃登美

### ＊わずか六歳の留学生

## — 女子教育の先駆者、津田梅子

# 太平洋を渡った明治のなでしこ



津田梅子 (1864-1929) 日本における女子教育の先駆者であり、津田塾大学の創立者。

【イメージイラスト】  
アオジマイコ

日本の歴史上で最大のピンチといえは、黒船来航から日清・日露戦争までではないかと、私は思っています。国力も軍事力も歴然とした力の差がある西欧列強に、四方から迫られた日本。その力に屈して従うか、自主独立を貫くために力を養うのか。選択肢は二つに一つ。そのとき先人が選んだのは、後者の道でした。最先端の技術や学問を我がものとしようと、多くの若者が決死の思いで世界に飛び立っていったのです。「自分が一日怠ければ、日本の進歩が一日遅れる」——このような意味の記述が、多くの留学生の日記や手紙に見られます。これほどの強烈な使命感に駆られ、寝る間も惜しみ勉学に勤しんだ先人たちのおかげで、私たちは平和で豊かな暮らしを送っていられる、そのことを忘れてはいけませんね。今回の主役は、そんな留学生の一人、津

＊もう、あと一日です

梅子は、幕臣の娘。幕府崩壊で職を失い北海道開拓使となった父は、開拓使次官・黒田清隆(後の総理大臣)が企画した女子留学生に、梅子を応募させました。旧幕臣の子として肩身の狭い人生を送るか、留学先で努力を重ね時代を切り拓く存在になるか——。二者択一を迫られた時、父娘は、険しくとも誇り高き道を選んだのです。その悲壮な覚悟は、日本の命運とも重なりますね。

ワシントン郊外のランマン家に預けられた梅子は、英語、ピアノを学び、現地の学校に通い始めます。そこでラテン語や自然科学、芸術など最先端の教育を受けました。